

**進捗状況の概要（1ページ以内）**

本年度は令和6年度からの導入を決定した新カリキュラムの科目配当に関する協議を重ね、特に「コミュニティ・社会デザインコース」を中心に科目精選とインテンシブ型科目配置を推進した。また、改定版ルーブリックの本運用開始、ソーシャルイノベーション・ラボの活動継続等、これまでの活動を継続・発展させた結果、「学びのエコシステム」の構築の整備をおおよそ完了させた。

**1. 実施体制の整備と全学波及**

インテンシブ教育プログラム運営委員会と同マネジメント委員会を中心とした実施体制の下、事業の内部中間評価として外部評価委員会を実施した。事業の進捗状況に基づき学外有識者から提示された課題をプログラム運営委員会・マネジメント委員会で協議し、今後の事業課題を抽出した。

学生メンター制度に関して、当補助事業終了後も「学びのエコシステム」の持続可能性を担保するため、本学内の既存TA制度への内包化を目指して本学部の自学自修TA制度の運営内規を改定し、自走化のための基盤を整備した。

全学波及に向けては、ホームページを通じた事業成果・取り組み内容の発信強化に加えて、全学部・研究科の自己点検評価担当教員等で構成される大学点検・評価委員会で本事業の進捗を共有した結果、学内の認知度が向上し、複数部門へのルーブリックの提供につながった。

**2. カリキュラム整備**

新カリキュラムでは、早期段階で涵養された学際的素養をベースに高年次の学習戦略を構築できる体系的学習を可能とするカリキュラムを実現した。2年次秋学期にはコース選択と同時にゼミナール選択を同時に行い、講義科目と演習科目（ゼミナール）とを往還しながら高度な学際探究力を育むことを目指す。Cross-disciplinaryの早期定着化を目的とした「総合知入門」を1年次秋学期（クォーター科目）に配置した他、学習者独自の知の深化（学際性の深化）を重視することを学習目的とした「社会科学創造的探求」を配置した。また、インテンシブ型モデルコースとして試行的に検討を進めていた従来カリキュラムのアカデミックカテゴリー「社会デザインコース」の科目精選を重点的に行い、その後継コースである「コミュニティ・社会デザインコース」のクォーター科目の増設を推進した。

**3. 学修成果の可視化・分析システムの構築**

昨年度に改定したルーブリックの本運用を開始し、データ収集・分析を行った。従来から実施している学生生活・学修行動調査（ディプロマ・ポリシー関連指標）との連携分析、当事業で構築した学修成果効果検証システムによるテスト的なデータ更新を通じて得られた分析結果およびシステムの運用の知見を蓄積している。

本年度のデータ分析では、当事業で指標としている「学生生活・学修行動調査による伸長率」と「ルーブリックによる学生自己評価」では、前者はキー科目履修者の方が伸長率が低く、後者はキー科目履修者の方が自己評価が高いという結果が出ており、データ精度や質問項目、学生の履修傾向等から総合的に検証を行う必要がある。

**4. 周辺概念の収集・整理**

当事業で考える Cross-disciplinary を「専門の統合：知見の統合や概念間の共通基盤の創出を図ること」と令和4年度に整理し、それを体現し、早期定着化を目的とする科目として新カリキュラムにおいて1年次秋学期に「総合知入門」を設置することとした。同科目の講義内容の検討にあたり、関連する概念の整理も行い、シラバスと講義コンテンツへ反映した。